

配 布 資 料

平成二十九年度設楽ダム関連発掘調査成果報告会

新設楽発見伝4

日時 平成30年3月3日(土)

午後1時~4時

会場 設楽町田口特産物振興センター
(設楽町田口字向木屋3番地1)



マサノ沢遺跡出土ハート形土偶

平成29年度の設楽ダム関連の発掘調査
大畑遺跡の発掘調査
マサノ沢遺跡の発掘調査
西地・東地遺跡の整理調査

講演 私たちが北設楽で縄文時代の遺跡の調査をしたころ

座談会 大名倉地区の縄文時代遺跡

野口哲也 (愛知県教育委員会)

鈴木恵介 (愛知県埋蔵文化財センター)

永井宏幸 (愛知県埋蔵文化財センター)

川添和暁 (愛知県埋蔵文化財センター)

平野吾郎 (磐田市文化財保護審議会会長)

平野吾郎・川添和暁・永井邦仁 (愛知県埋蔵文化財センター)

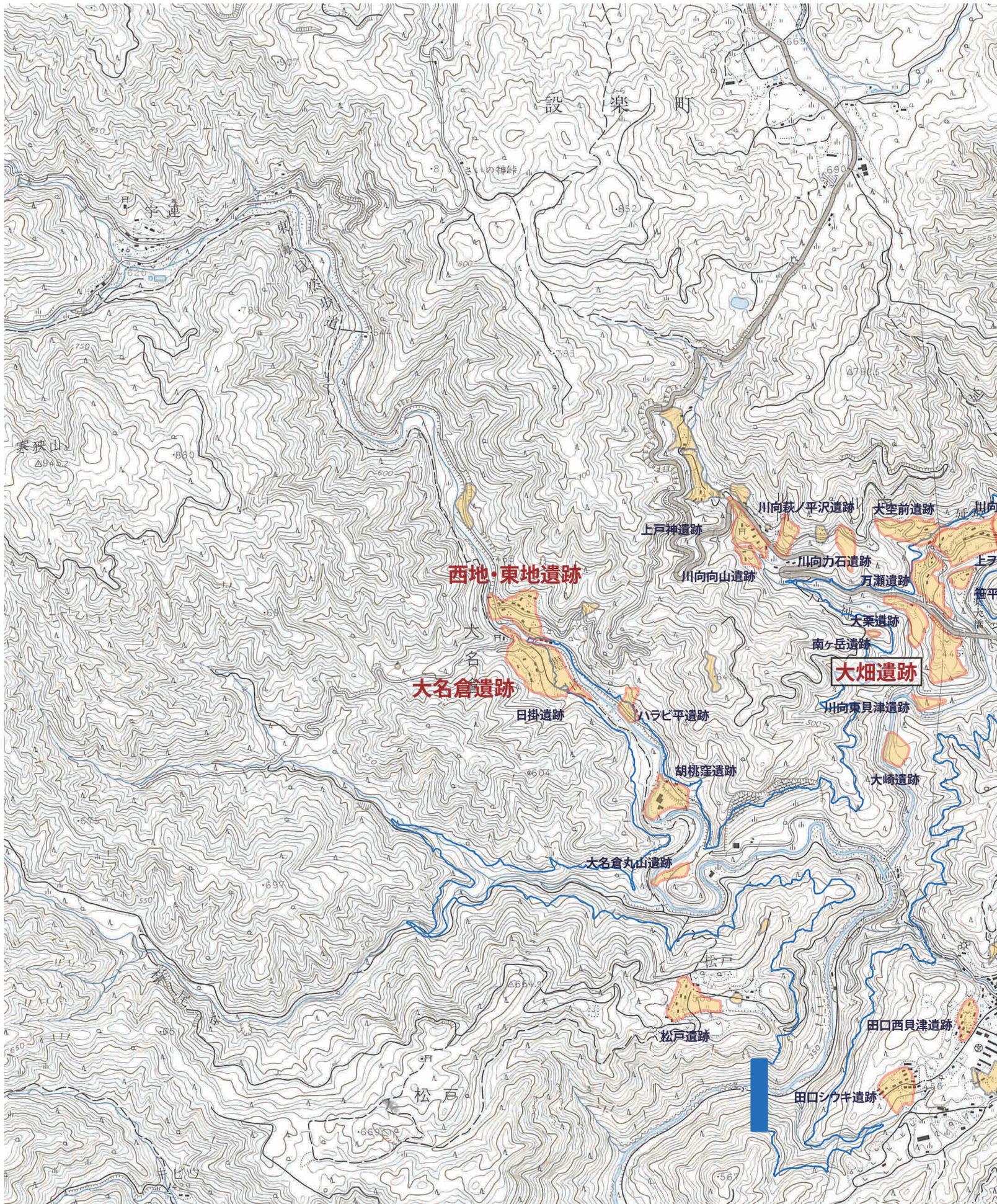
主催 設楽町教育委員会

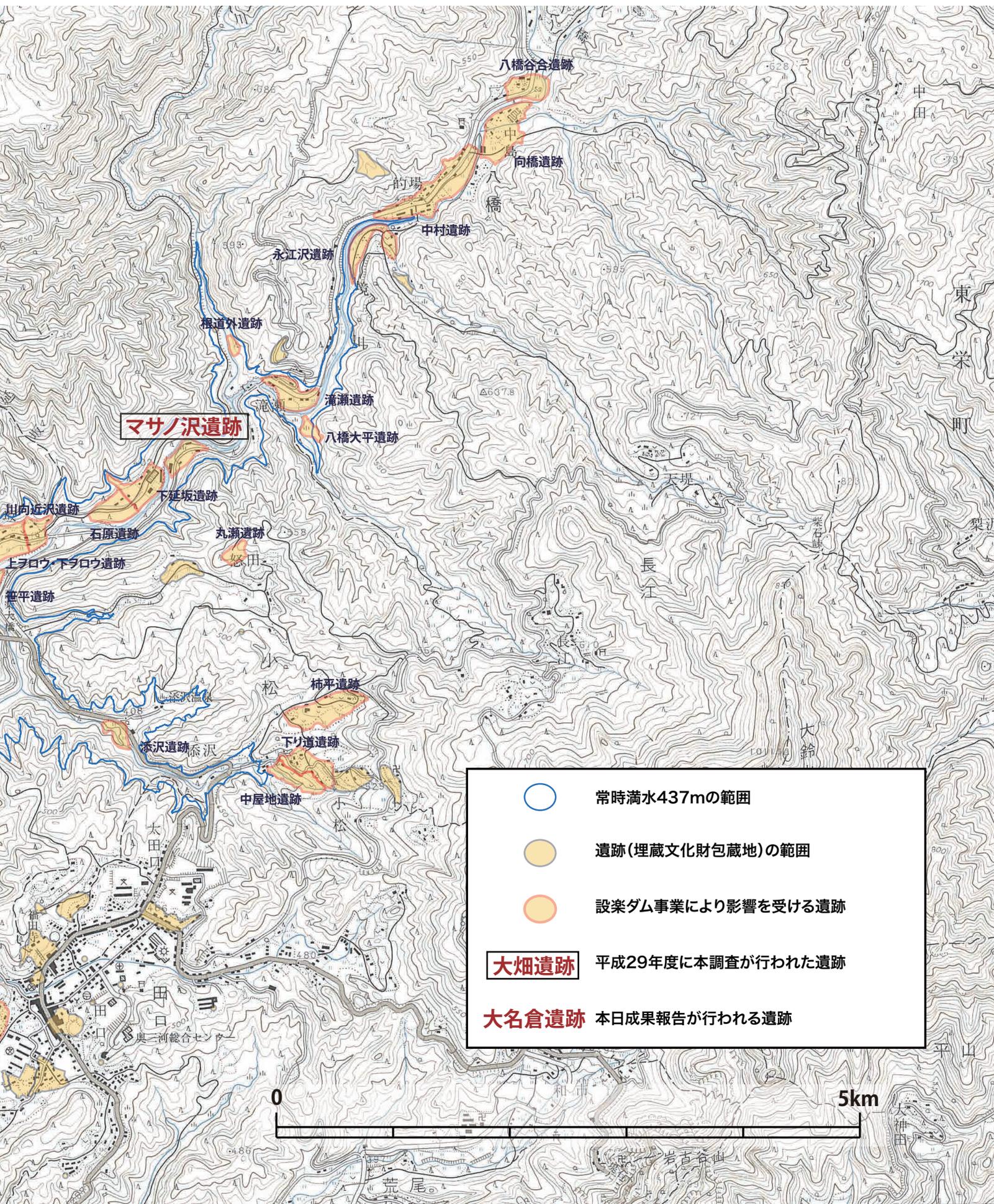
国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所

(公財) 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター

愛知県教育委員会

設楽ダム関連遺跡地図





1.平成29年度 設楽ダム関連発掘調査について

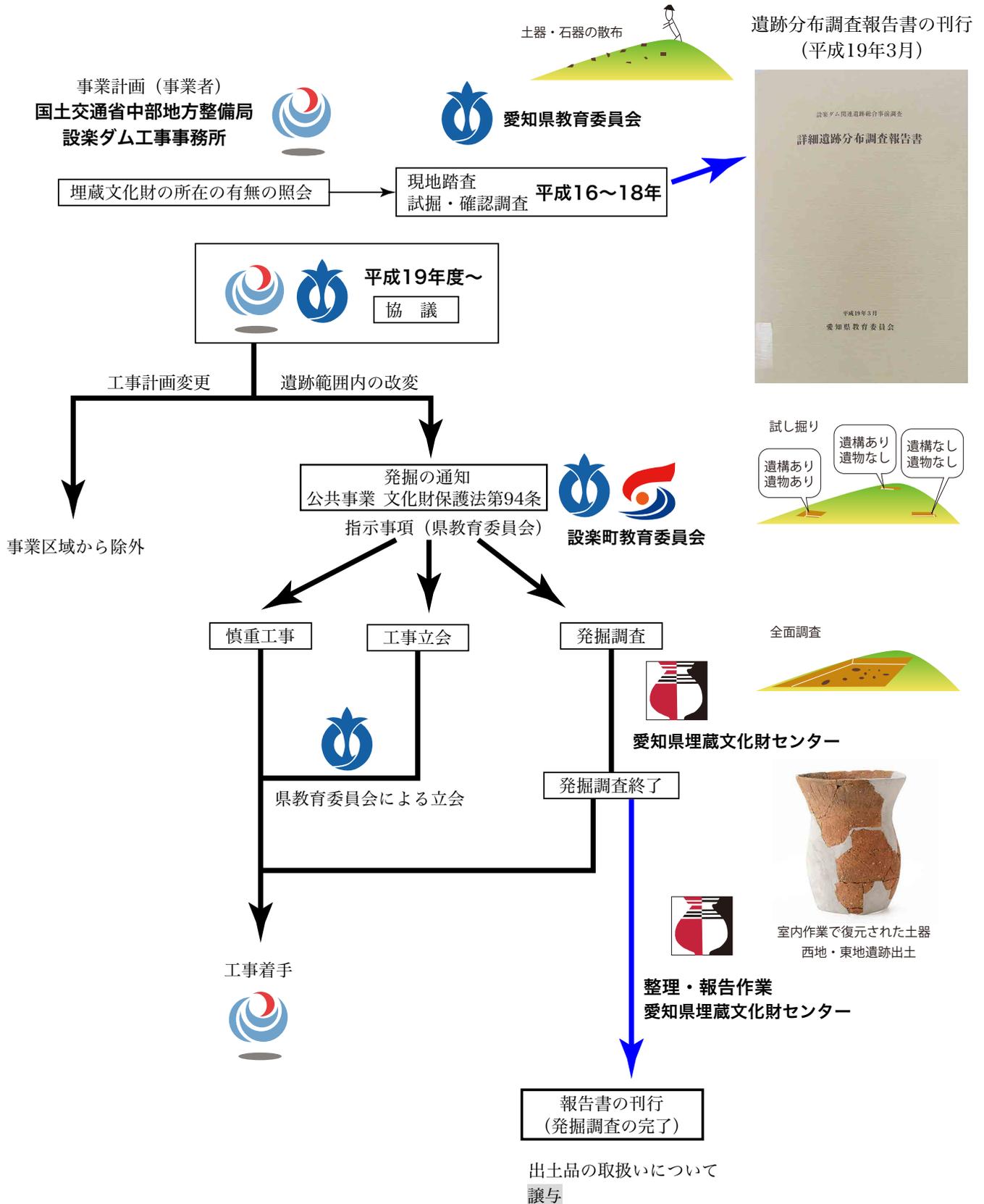
愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室 野口 哲也

1. はじめに
2. 開発事業と埋蔵文化財に関する諸手続
3. 平成29年度設楽ダム関連の発掘調査について

平成29年度 発掘調査遺跡一覧

遺跡名	面積 (㎡)
大畑遺跡	13,950
マサノ沢遺跡	2,050
合計	16,000

開発事業と埋蔵文化財に関する諸手続について



おおはた 2. 大畑遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター 鈴木 恵介

所在地：北設楽郡設楽町川向地内（北緯35度6分33秒 東経137度33分58秒）

調査期間：平成29年5月～平成30年1月

調査面積：13,950㎡

調査担当者：鈴木正貴・鈴木恵介・早野浩二・永井邦仁・松田訓・永井宏幸

立地と環境

大畑遺跡は東から境川、北から戸神川の2つの川が合流する場所の北東側丘陵上にあります。遺跡の範囲には、西側と東側の2カ所のピークをもつ丘陵があり、2つの丘陵間は谷が形成されています。今回の発掘調査はこの谷の周辺を中心に行ったもので、縄文時代中期～後期（4500～3500年前）の遺構や遺物が出土しています。

調査の成果

今年度の調査で検出された遺構には、^{たてあな}竪穴建物跡12棟（同じ場所での重複を含む）、^{しゅうせきろ}集石炉1基、^{おとあな}陥し穴8基等があります。これらの遺構は、竪穴建物跡は西側の丘陵頂部周辺に5基、中央の谷周辺に6基、南の丘陵先端頂部付近に1基分布しています。

特徴的な竪穴建物跡として、南側の丘陵先端部にある065SIは、内部の^{いしがこいろ}石囲炉に長野県南信地域で検出例のある^{ふくろ}副炉とよばれる装飾的な小型の炉が付属しており、愛知県内では初の検出例となります。また、300SIで検出された炉も石が円形に並べられた特異な形状で、こちらは豊田市（旧稲武町）ヒロノ遺跡や長野県諏訪地域に類例がありますが、いずれも珍しい検出例となっています。

西側の丘陵上の竪穴建物の中程に位置する362SIは、新旧2つの石囲炉を持ち、改築されたものと思われます。さらにこの362SIは、埋没した後に跡地に石列が並べられ、すぐ脇に石組炉が造られるなど、竪穴建物の廃絶に関わる儀礼と思われる行為も行われています。

陥し穴8基については谷部に分布します。遺物の出土は確認されていませんが、時期は縄文時代と思われます。

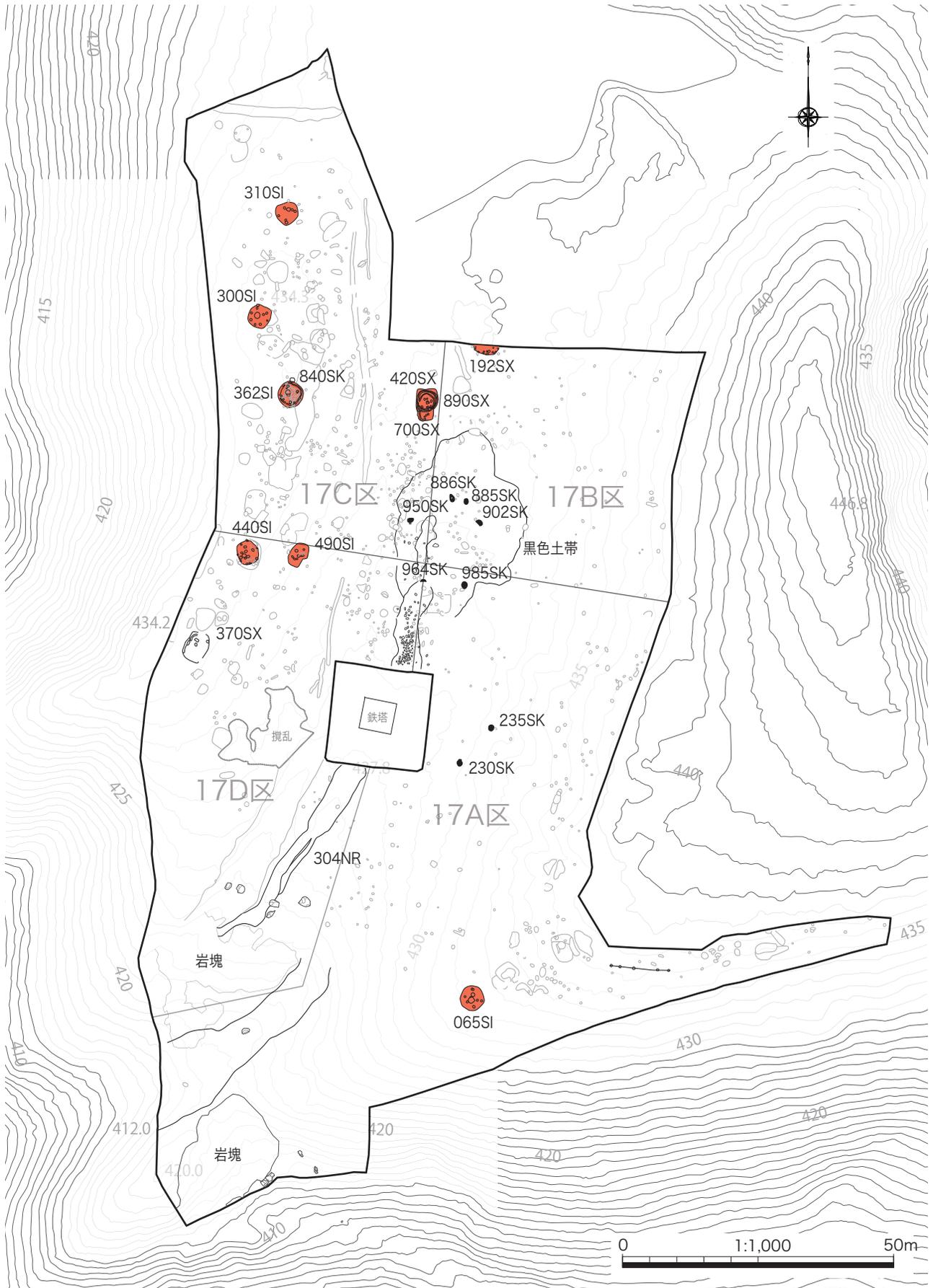
谷部には黒色土が厚いところで60cm程堆積し、特に西側には^{すりいし たたきいし}磨石・敲石、^{いしざら けんかるい}石皿等の堅果類の加工に関わると考えられる遺物も出土しています。



大畑遺跡遠景(北より)



大畑遺跡谷部中央の黒色土(東より)



大畑遺跡 平成29年度調査区と遺構の分布傾向



竪穴建物跡065SI (北より)



0065SI内石囲炉 (東より)



竪穴建物跡300SI (南東より)



300SI内石囲炉 (東より)



竪穴建物跡362SI (東より)



362SI内石囲炉 (南東より)



竪穴建物跡 420SI・700SI・890SI他 (東より)



竪穴建物跡440SI (東より)

3. マサノ^{さわ}沢遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター 永井 宏幸

所在地：北設楽郡設楽町川向字東貝津（北緯35度7分4秒 東経137度34分35秒）

調査期間：平成29年7月～平成30年1月

調査面積：2,050㎡

調査担当者：鈴木正貴・永井宏幸

立地と環境

マサノ沢遺跡は寒狭川の支流にあたる境川左岸の幅の狭い^{だんきゆうめん}段丘面に立地しています。現況は県道設楽根羽線を挟んで山側が茶畑と山林、川側が水田・畑地および宅地でした。標高は山側の高いところで405m、川側の低いところで400m前後です。

調査の成果

遺跡は大きく2つの時期を中心に見つかっています。

縄文時代後期（約4000年前）を中心とする時期は、平石を棺の輪郭に沿って配置した^{はいせきぼ}配石墓と呼ばれている墓とこれらに関連する直径2m前後の大型土坑などが見つかっています。後期の石を配した墓はいままでに愛知県内に発見例がありません。なかでも配石墓195SKから出土した^{がんぐう}岩偶・^{がんぼん}岩版類は注目できます。一つの墓から大中小3つのサイズが見つかっています。そのほか東海初出土の^{どぐう}ハート形土偶と岩偶・岩版類が各1つ見つかった土坑159SKなど、縄文時代後期の祭祀具として使用された道具が多く見つかっています。

縄文時代晩期末から弥生時代前期（約3000～2500年前）を中心とする時期は、土器を棺として利用した^{どきかんぼ}土器棺墓が6基見つかっています。おもに深鉢を使用した棺で、この時期に特徴的な墓がまとまって発掘された重要な調査例です。





集石遺構 (160SX)



配石墓 (094SX)



配石墓 (195SK)



配石墓 (190SK)



土器棺墓 (427SK)



土器棺墓 (186SK)



土器棺墓 (143SK)



土器棺墓 (066SK)



岩偶・岩版類 (195SK 出土)



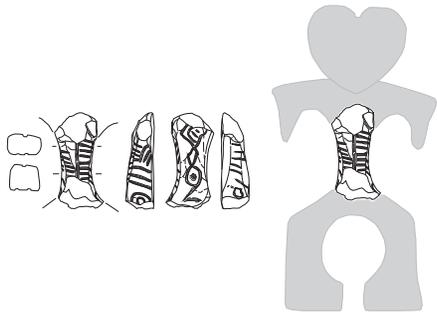
遺物集積 (179SK 出土)



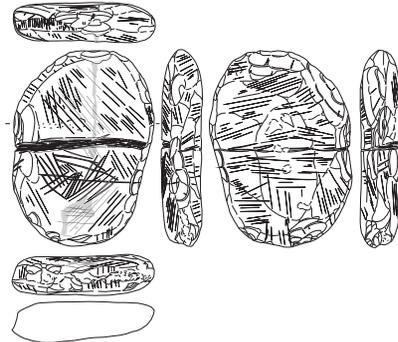
有溝石錘 (426SK 出土)



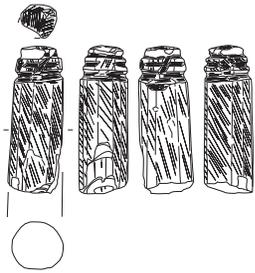
石棒・石刀類



ハート形土偶 (159SK 出土)



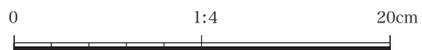
岩偶・岩版類 (159SK 出土)



石棒・石刀類 (179SK 出土)



岩偶・岩版類 (195SK 出土)



にしじ ひがしじ 4. 西地・東地遺跡の整理作業

愛知県埋蔵文化財センター 川添 和暁

所在地：北設楽郡設楽町大名倉字西地、東地（北緯35度6分41秒 東経137度32分37秒）

整理期間：平成29年4月～平成30年3月

発掘調査年（面積）：平成26（4,220㎡）、平成28年（340㎡）

整理担当者：川添和暁

立地と環境

西地・東地遺跡は標高約450m、寒狭川^{かんさがわ}左岸の山から伸びる傾斜地^{かがんだんきゆう}および河岸段丘上に立地します。平成26年・平成28年の調査によって、縄文時代中期末から後期初頭（今から約4,400年前頃）を中心とする縄文時代の集落跡と中世以降の活動様相が発掘調査によって明らかとなりました。ここでは、その後の発掘調査記録の検討や出土遺物の分析など、室内での整理調査の概要と成果について報告します。

整理調査の概要

発掘調査で出土した遺物は、洗浄後に以下のような経過で分析を行いました。その上で、最終的には発掘調査報告書という書籍の形に編集され、刊行となります。

1. 素材による分類（土器・陶器・石器・木器・金属器など）【素材分類】
2. 素材分類別に時代・時期・器種の分類【時代・器種分類】
3. 素材分類や時代・器種分類別に、接合関係の検討【接合】
4. 素材分類や時代・器種分類別に、出土遺物の点数・重量の記録【統計的処理】
5. 特徴的遺物について、実測図化および写真撮影【画像記録】
6. 必要に応じて自然科学的分析の実施
7. 1～6の分析・検討結果を発掘調査記録と照らし合わせた、遺跡の総合的検討

※画像記録の前に、全体の形が分かるように、復元作業を行う場合もあります。

また、大きく接合できる場合にも、充填材を入れつつ復元を行うこともあります。

整理調査の成果

14B区・16区で縄文時代後期初頭の集落跡が見ついているものの、それ以外の縄文時代についても、遺物の分布状況により、当時の活動の濃厚な場が明らかとなりました。出土遺物については、伊那地域の影響を受けた土器や黒曜石^{こくようせき}の多量出土など、信州地域の関係性を見つつ、東三河山間部の様相を示す好資料となったといえます。

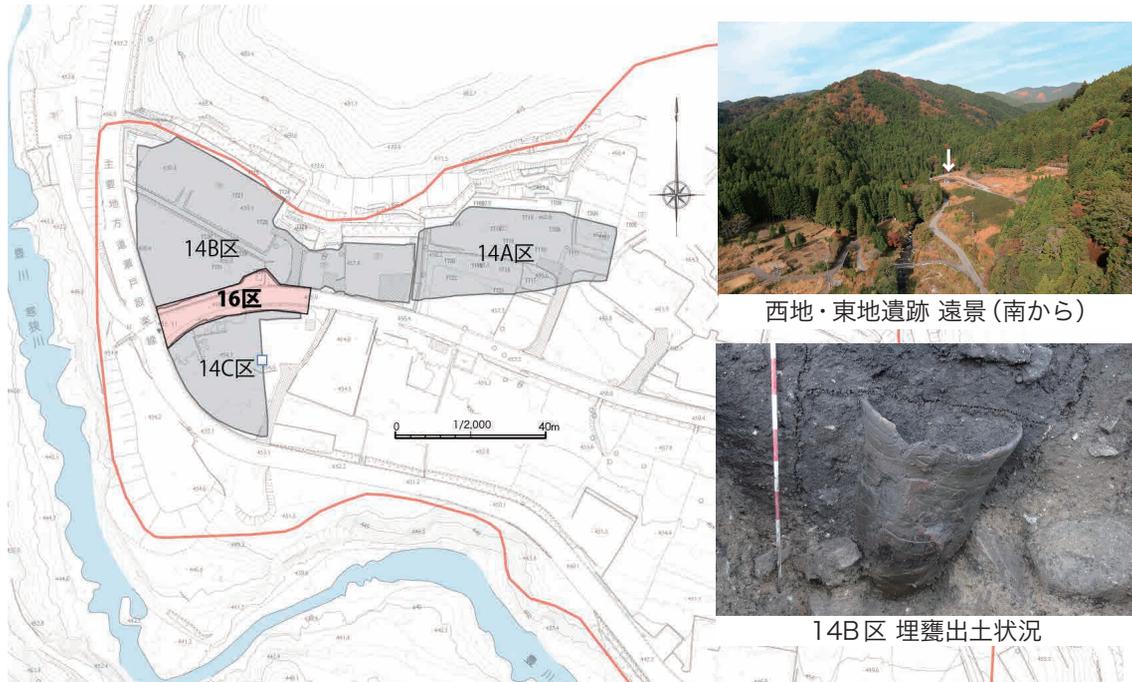


図1 調査区位置図 (1:2,000)

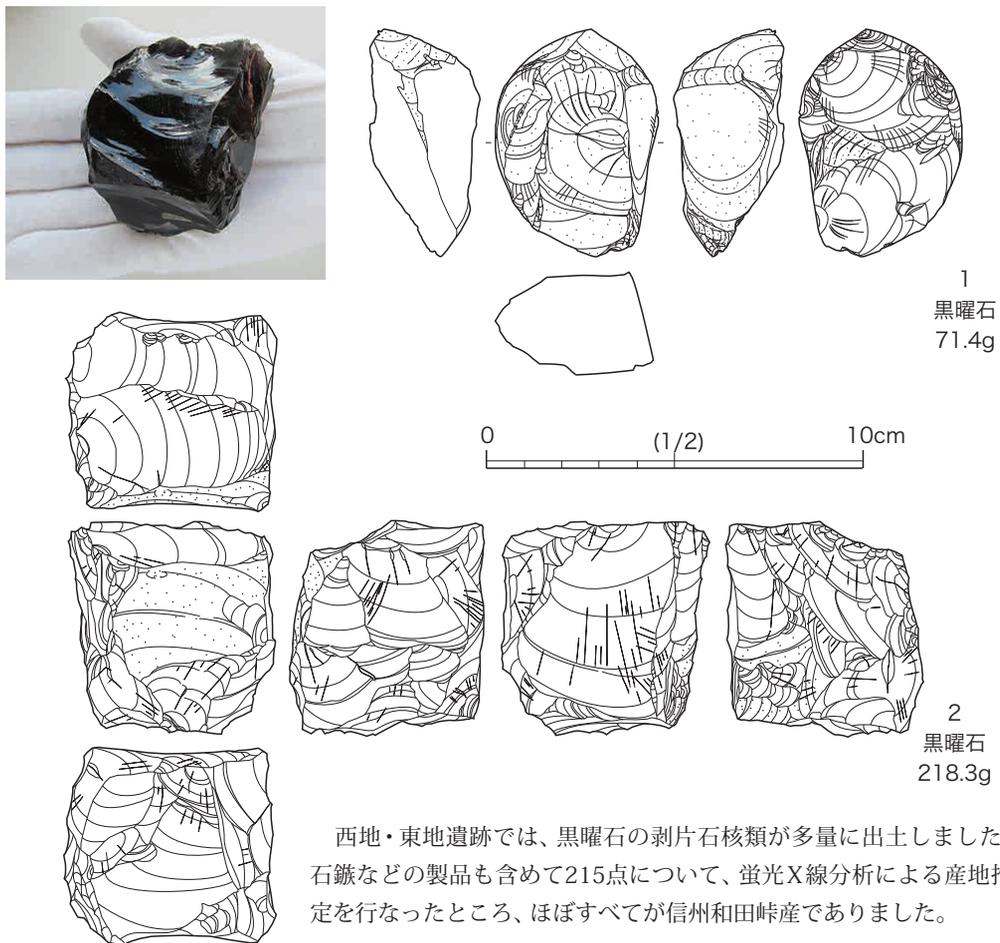


図2 西地・東地遺跡出土 黒曜石 石核

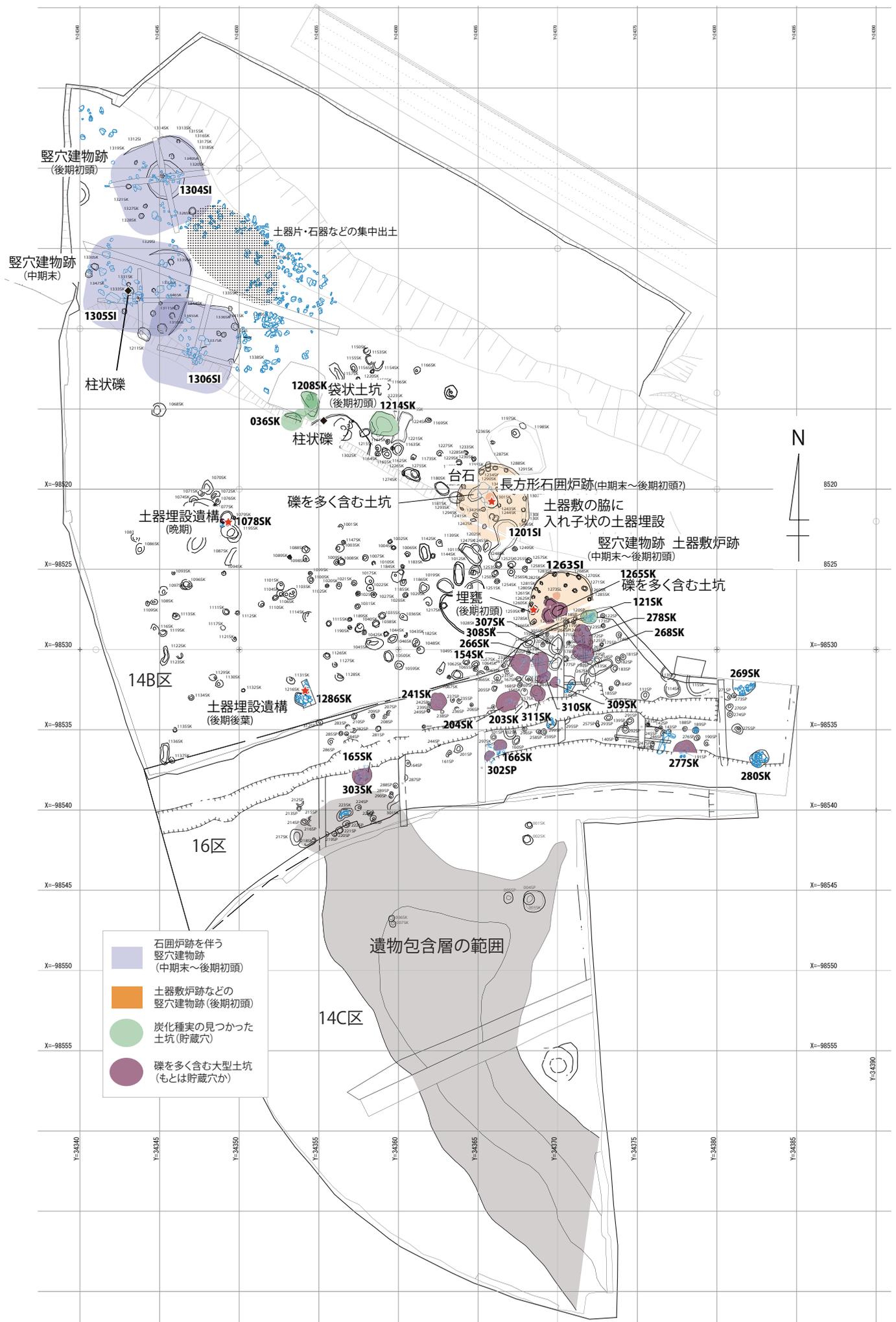


図3 西地・東地遺跡縄文時代遺構位置図(1:300)【マス目は5m】

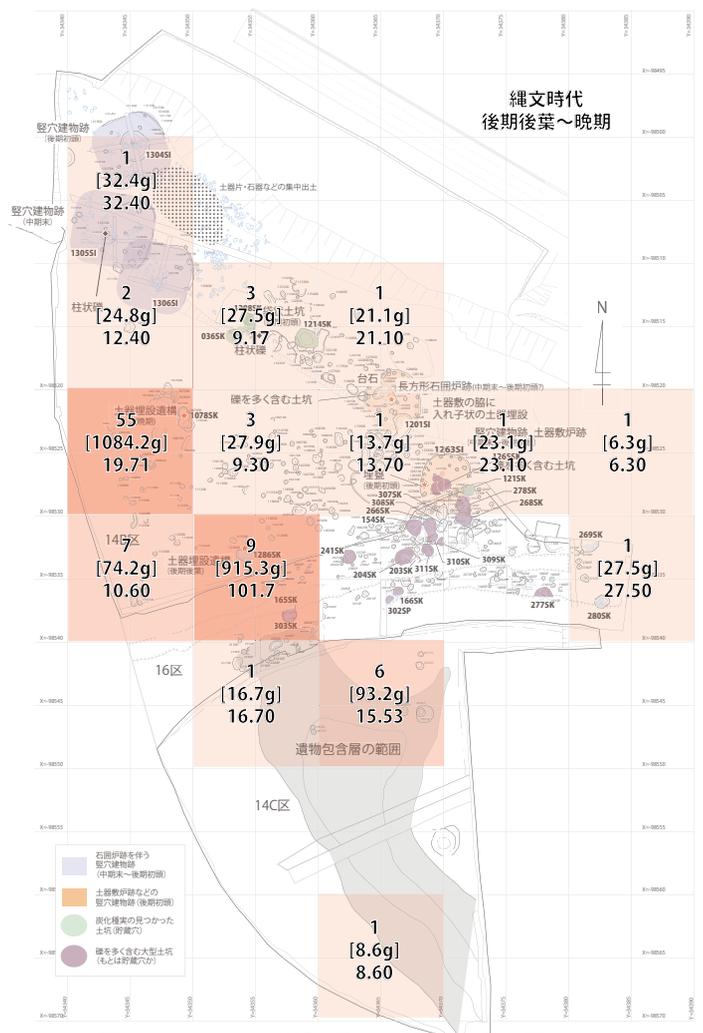
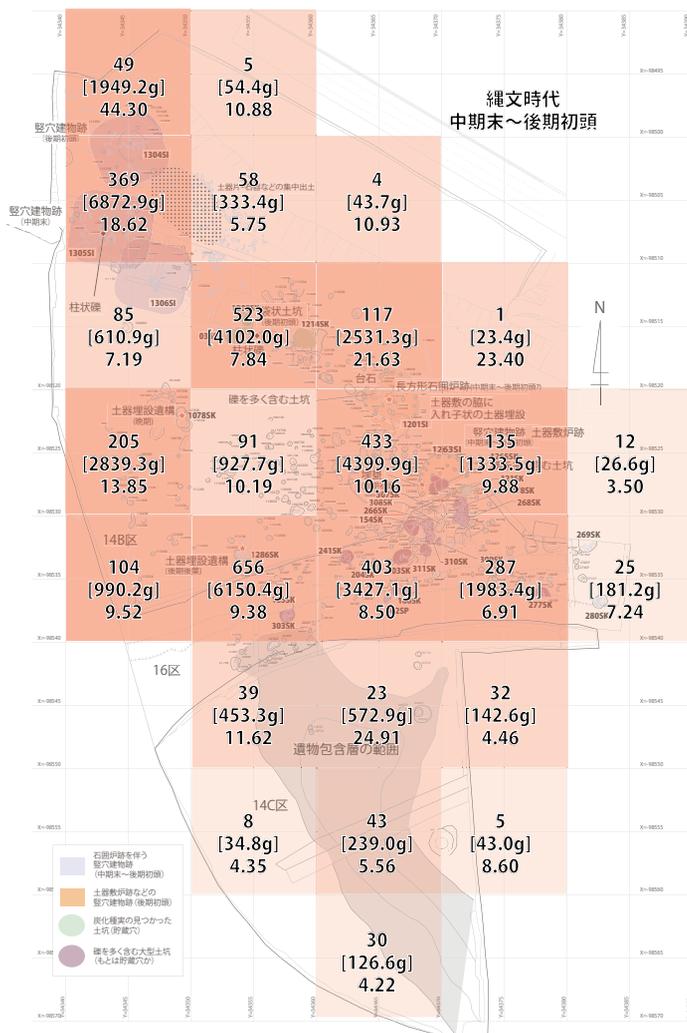
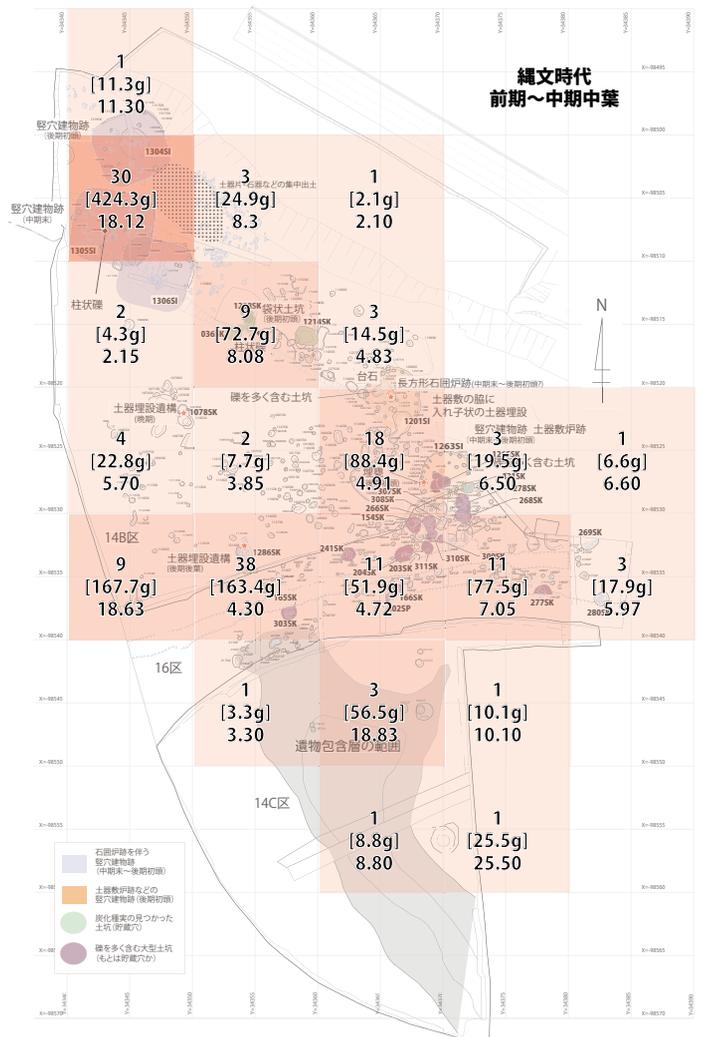
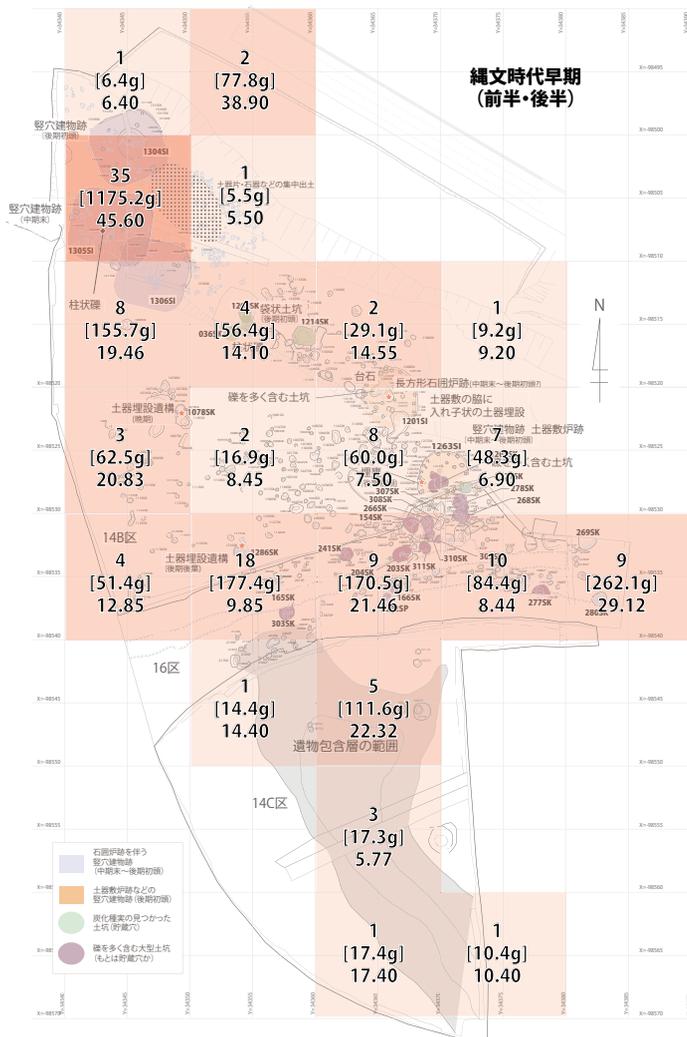
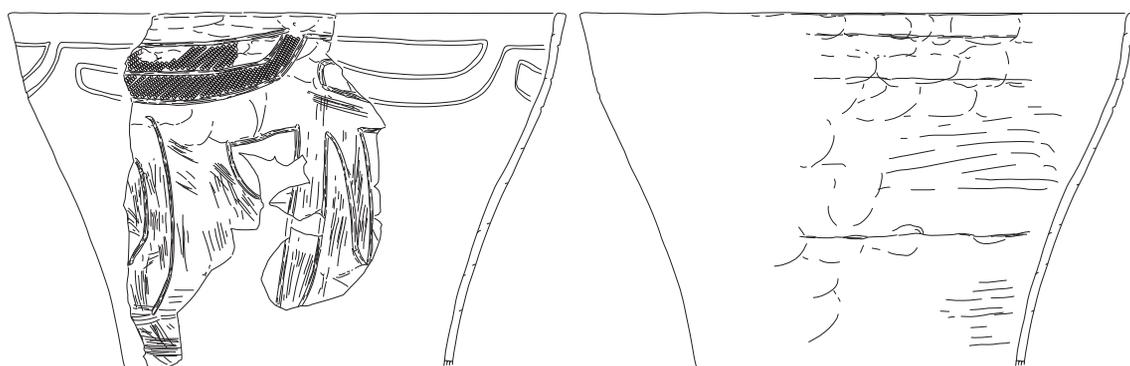
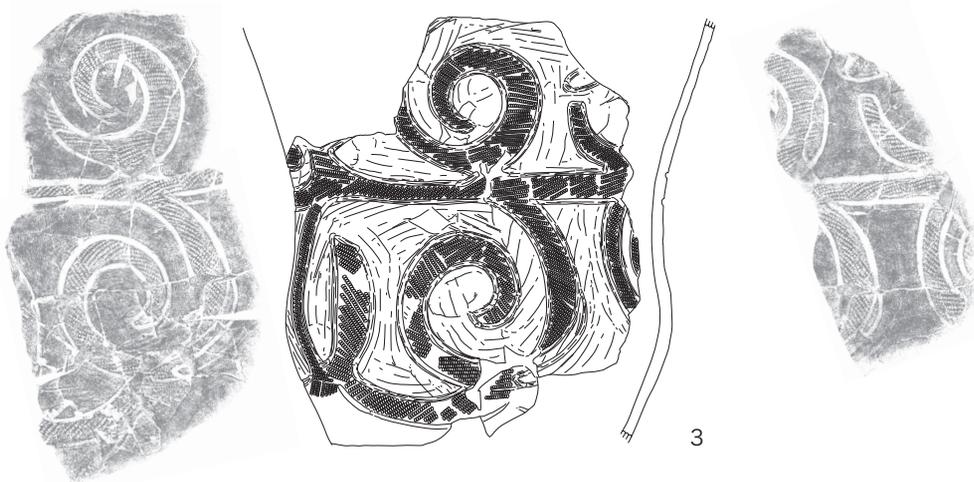


図4 西地・東地遺跡縄文土器出土傾向図 (1:600)

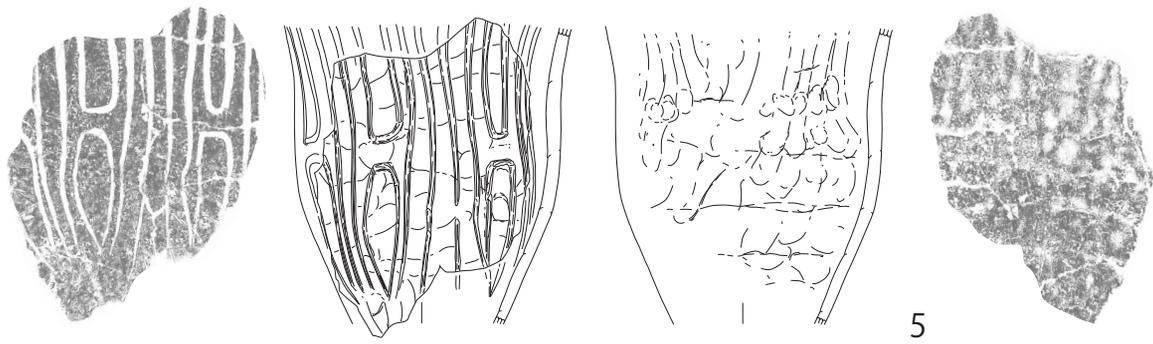


1304SI石围炉迹内出土土器

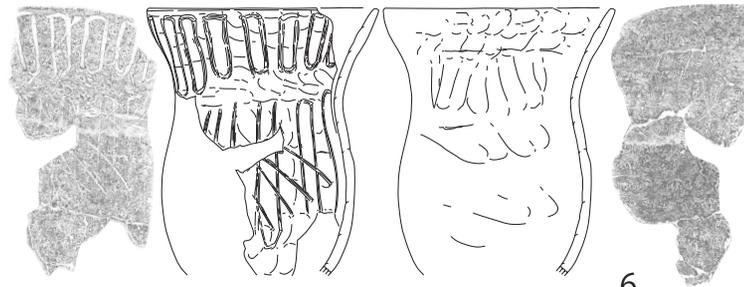
0 (1/6) 20cm

4

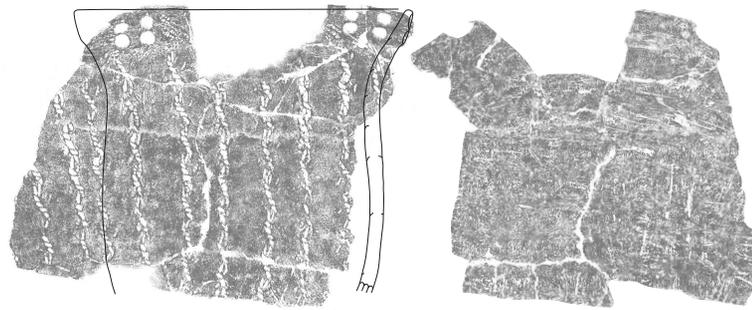




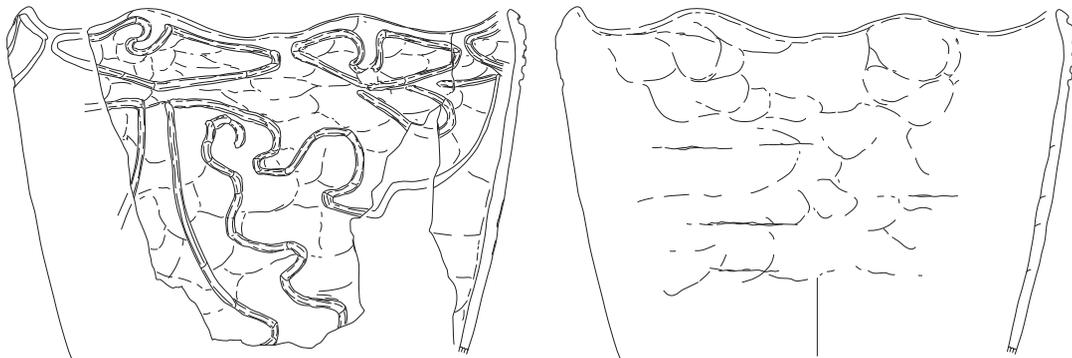
5



6



7



1305SI石囲炉跡内出土土器

0 (1/6) 20cm

8

1304SIおよび1305SIの石囲炉跡内からは、深鉢の大型破片が、それぞれ複数個体分出土しました。土器自体には、著しい被熱による劣化は認めれないため、炉の機能終了時に、大型の土器破片が入れられたようです。

これらの土器は、縄文時代中期末から後期初頭の時期のものです。いろいろな形や文様の土器がありますが、炉内に人為的に入れられたことから、1304SIおよび1305SIのそれぞれで、これらの土器群は同時期に存在していた事を示しています。このように、これらの土器群は、今後の研究上の指標となるような学術的評価の高い資料群になるといえます。

講演 私たちが北設楽で縄文時代の遺跡を調査したころ

磐田市文化財保護審議会会長 平野 吾郎

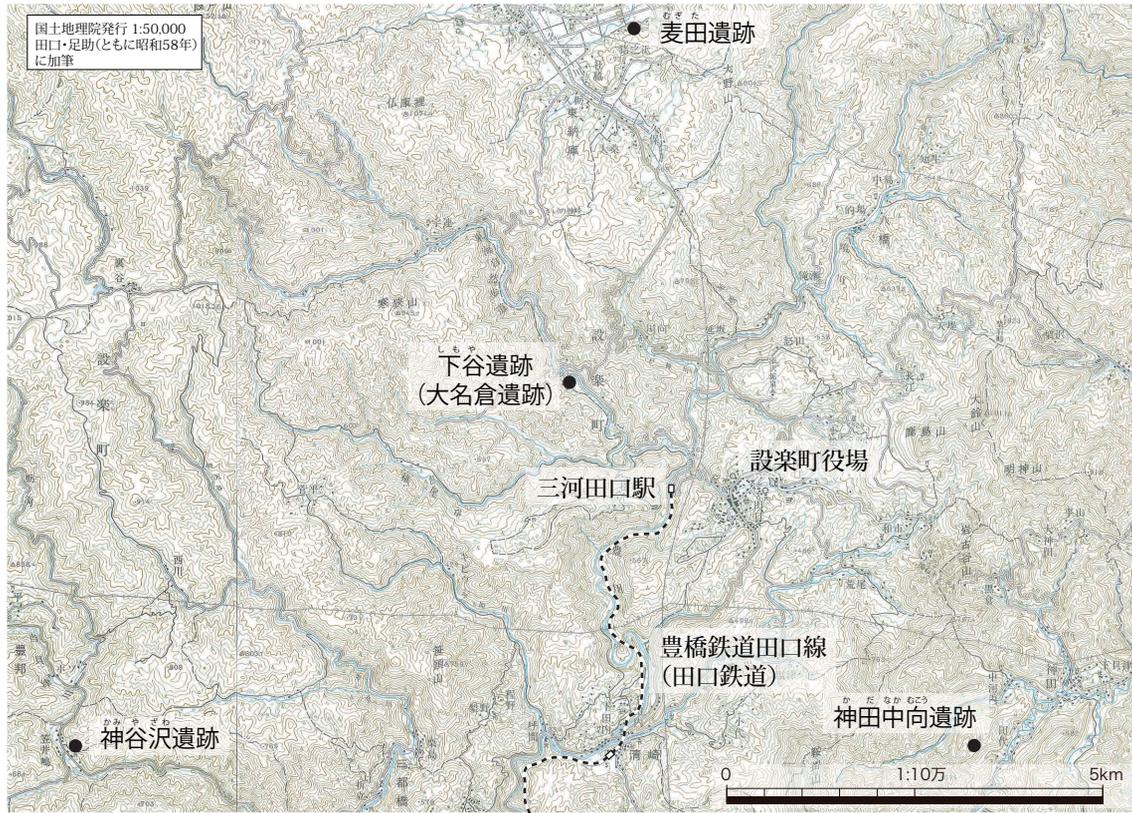
I はじめに

II 調査した遺跡と目的

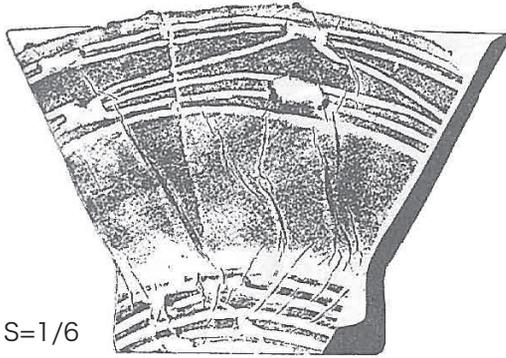
- 調査した遺跡
- 目的
 - 1 縄文土器の形式学的な研究・・そのころの縄文時代研究の主流
 - 2 弥生時代の始まった頃の東海地方は？
「水神平式土器すいじんびらしきとその前後」
「水神平式土器」は縄文土器か？弥生土器か？
弥生土器＝米栽培（農耕社会の）が行なわれている時代の土器
- 各遺跡の調査
 - 1 かだなかむこう 神田中向遺跡 神田字中向 昭和41(1966)年3月
 - 2 かみやざわ 神谷沢遺跡 豊邦字神谷沢・・・田口郷土館 昭和42年(1967)年3月
 - 3 しもや 下谷遺跡 大名倉字下谷 昭和43(1968)年3月
 - 4 むぎた 麦田遺跡 東納庫字万場 昭和43(1968)年11月

III 近年の縄文時代研究と最近の設楽地域の調査

- 近年の縄文時代研究の特徴
 - 1 土器（編年）研究からの脱却・・縄文文化の研究
 - 2 学際的な、組織的な研究・・豊川下流域の貝塚調査
 - 3 地域の歴史の一部
・・地域に成果が公開される・・現地説明会
- 北設楽の調査では
 - 1 土器と石器が出土している・・貝や骨は期待できない
新しい調査方法がとられている・・理化学的な分析を含めて
 - 2 広い面積の調査が行なわれている・・部分的でなく、集落の様子を見せている
 - 3 地域を系統的に、悉皆的に調査している
河川流域の段丘、低い丘陵・・縄文集落が営まれた場所は限定されている
・この流域の集落を数多く調査している
・集落の構造や集落間の関係・・縄文社会の構造の検討

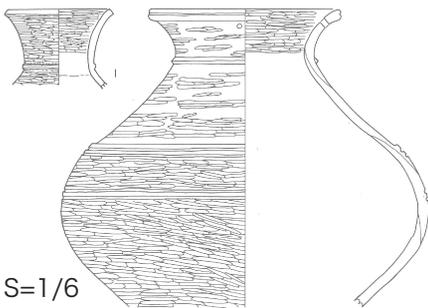


遺跡位置図



S=1/6

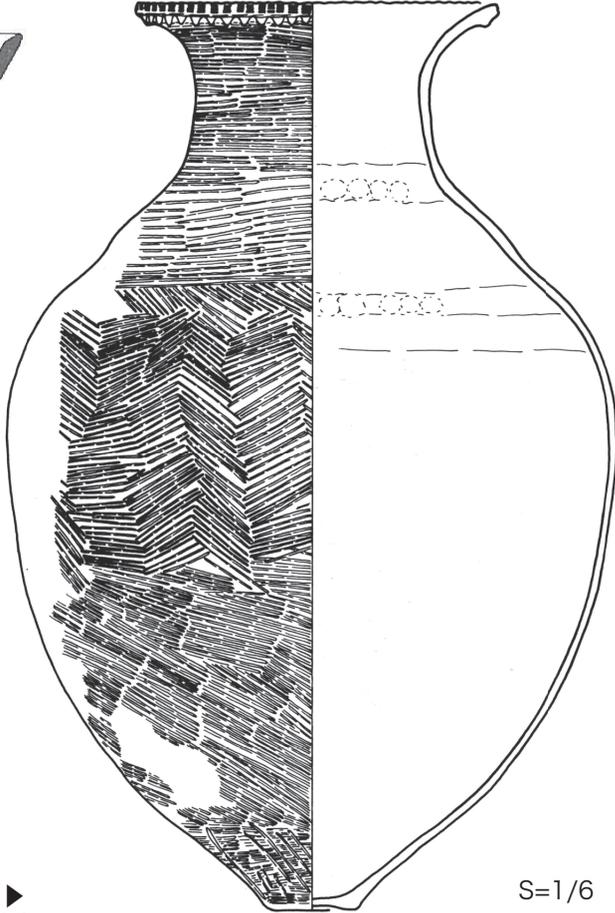
▲ 千葉県成田市荒海貝塚出土の荒海式土器
(西村正衛 1961 『千葉県成田市荒海貝塚』
『古代』第36号 早稲田大学考古学会)



S=1/6

▲ 豊橋市白石遺跡出土の遠賀川系土器
(豊橋市教育委員会 1993 『白石遺跡』)

豊川市麻生田大橋遺跡出土の水神平式土器 ▶
(愛知県埋蔵文化財センター 1991 『麻生田大橋遺跡』)



S=1/6

おおなぐら 大名倉遺跡について

愛知県埋蔵文化財センター 永井邦仁・川添 和暁

所在地：北設楽郡設楽町大名倉字滝ノ上、滝ノ下、下谷、南貝津（北緯35度6分41秒 東経137度32分37秒）

調査期間：昭和43年（早稲田大学）、平成19・20・25～28年（範囲確認調査）

調査面積（範囲確認）：総計516㎡

調査担当者（範囲確認）：宮腰健司・松田訓・酒井俊彦・鈴木正貴・川添和暁・永井邦仁

立地と発掘調査の概要

大名倉遺跡は、豊川上流右岸に所在する縄文時代～江戸時代の遺跡です。遺跡は豊川に面する標高440～447mの段丘面を中心に、一部は標高470mの山裾にまで広がっています。

本遺跡では昭和時代の始め頃から土器や石器が採集される遺跡として知られ、設楽町奥三河郷土館には多数の遺物が所蔵されています。昭和43（1968）年3月には早稲田大学の桜井清彦教授らによって発掘調査が行われました。愛知県埋蔵文化財センターでは平成19（2007）年以降、設楽ダム事業において範囲確認調査を行い、総計223か所の試掘トレンチによって遺構や遺物の分布状況や土層についての確認を行いました。

大名倉遺跡の縄文時代集落について

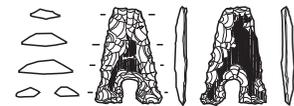
大名倉遺跡の範囲確認調査では、縄文時代中期後半～後期初頭と同後期中葉～後葉の土器が多く出土しています。トレンチごとに集計すると（表1）、それぞれの分布が異なっている点に注目することができます。つまり前者は標高448～452mの比較的高い斜面地に分布しているのに対し、後者はそれより低く傾斜の緩い段丘面に分布しているのです。このことはそれぞれの時期の集落（生活域）が微妙に異なっていることを示していると考えられます。さらに若干量がみられる縄文時代早期の土器も斜面地で限定的にみられる点も重要です。

以上のように遺物の出土状況からみる縄文時代集落の広がりには約70m四方とみられます。また、その南側はくぼ地になっていたことも調査で確認された^{きばんそう}基盤層や湧水の状況から描き出すことができます。このように縄文時代の集落は^{びちけい}微地形と深く関わって立地していたことがわかってきました。

表1 大名倉遺跡 範囲確認調査遺物 出土状況一覧表

調査年	TTNo.	遺構	縄文時代					弥生時代	中世～戦国期	中世～近世	近世以降	石器
			早期前半	早期後半	中期後半～後期初頭	後期中葉～後葉 (後葉主体)	縄文不明		陶器	ナベ	陶器・磁器	
08 01											磨石・敲石類1	
08 02						7 [38.2g]						
08 03						5 [15.9g]						
08 04		○				51 [405.4g]					破片2・磨石・敲石類1	
08 05						10 [45.2g]						
08 06						13 [69.4g]				1 [0.9g]		
08 07						37 [198.8g]				1 [4.1g]	磨石・敲石類2	
08 08			1 [6.2g]			4 [25.4g]					大型剥片1・磨石・敲石類1	
08 09						54 [524.6g]				3 [16.3g]	スクレイパー2・剥片2・ 大型剥片1・磨石・敲石類4	
08 10							3 [7.9g]			1 [2.2g]	剥片1・大型剥片石核1・ 石皿台石類1	
08 12								1 [7.7g]		2 [6.3g]		
08 14							2 [6.8g]					
08 16											磨石・敲石類?1	
08 17							3 [8.4g]				剥片1	
08 19						1 [4.2g]	6 [9.8g]					
08 20										1 [2.6g]		
08 29						2 [63.2g]	1 [3.0g]		1 [3.7g]			
08 40										1 [1.9g]		
13 05										5 [113.3g]		
13 10										1 [1.2g]		
13 14										1 [4.2g]		
13 15									1 [43.4g]			
13 18										6 [46.1g]	砥石1	
14 01										2 [41.6g]		
14 02										4 [71.3g]		
14 03										6 [28.0g]		
14 04										10 [48.8g]		
14 05									1 [19.4g]	11 [140.4g]		
14 07								1 [60.7g]		2 [4.4g]		
14 09										7 [76.5g]		
14 10										2 [25.4g]		
14 14									1 [4.0g]	1 [4.4g]		
15 01										1 [2.3g]		
15 04										1 [17.6g]	砥石2	
15 07										2 [56.0g]		
15 12									4 [40.7g]			
15 15						2 [8.7g]						
15 16		○	1 [8.9g]		23 [139.5g]						剥片2・礫器1・打欠石錘1	
15 17					2 [8.2g]							
15 21										1 [27.9g]		
15 22										1 [31.2g]		
15 25					1 [8.7g]					7 [40.8g]		
15 26										3 [15.4g]		
15 27					2 [8.1g]					10 [122.6g]		
16 01										1 [4.5g]		
16 12			1 [150.0g]								剥片1	
16 17					2 [11.9g]							
16 20			2 [21.7g]		2 [13.6g]		3 [15.7g]				磨石・敲石類1	
16 23					1 [5.8g]						剥片1	
16 25		○			61 [496.2g]		1 [12.7g]				剥片1・磨石・敲石類1	
16 30										2 [85.6g]		
16 32										1 [8.8g]		
16 33										4 [10.1g]		
16 34										1 [6.0g]		
16 35							1 [3.1g]					
16 36										3 [83.2g]		
16 39										1 [1.2g]		
16 40										1 [17.1g]		
16 50										1 [2.5g]		
16 60										1 [3.6g]		
16 68										1 [3.3g]		
16 70										2 [4.3g]		

大名倉遺跡では、縄文時代、中世から戦国期、さらには近世以降の遺物が出土しています。上表の赤枠は、縄文土器が多く出土したり、大きな破片の状態で出土したことを示しています。これは、その調査場所(トレンチ)での遺跡の保存が良好であったり、当時のヒトの活動により形成された包含層が安定して存在していることを示しています。



チャート

0 (1/2) 5cm

図1 大名倉遺跡出土
トトロ石器
【奥三河郷土館所蔵】

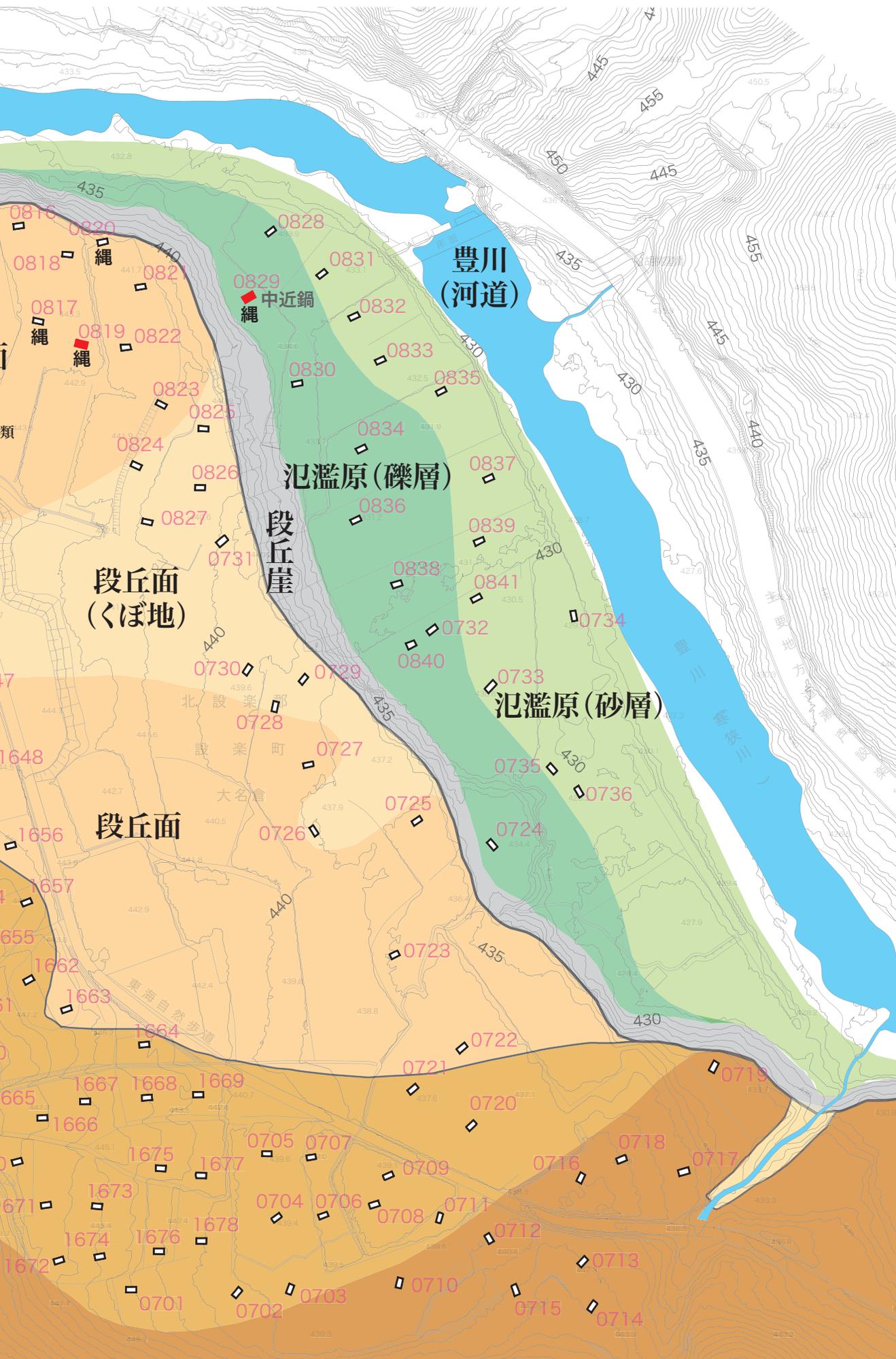


図2 大名倉遺跡のトレンチ配置と出土遺物の分布状況

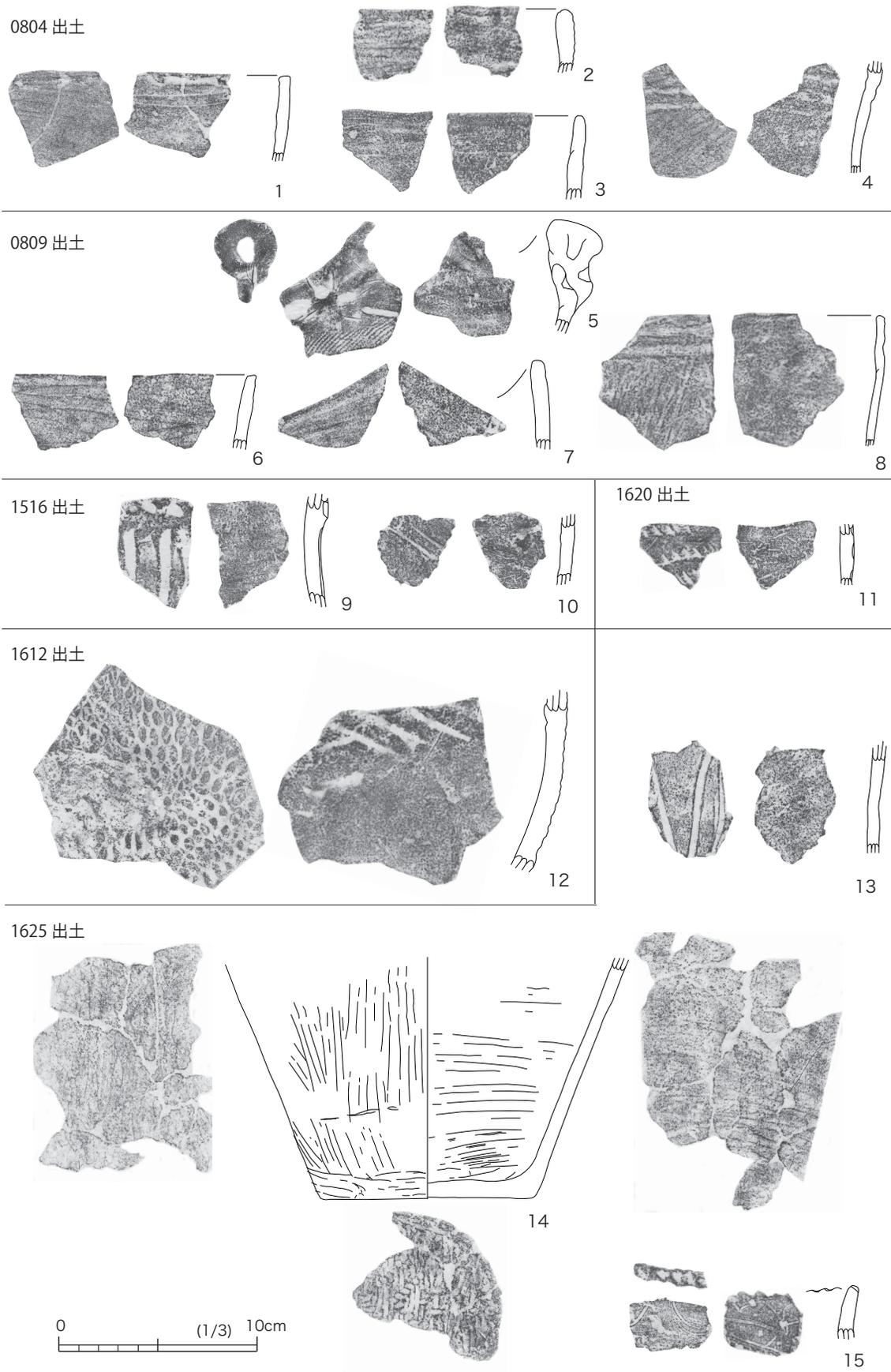


図3 大名倉遺跡 範囲確認調査出土 縄文土器

PhotoScanによる3D元データの取得

はじめに

最近のデジタル技術の進歩は素晴らしく、物の大きさや形をデジタル化するのに、レーザスキャナーなどの高額な機械を使わなくてもできるようになってきました。複数枚の写真を用意し、安価な(もしくは無料の)パソコンソフトを使うだけで、3次元データを入手できるのです。またその技術を使って、文化財の記録保存を図る動きも始まっています。例えば、長崎大学が行っているNAGASAKI 3D PROJECTでは、^{ぐんかんじま}軍艦島全体が3次元モデルとしてwebで公開されています。また九州文化財計測支援集団による^{こまいぬ}狛犬などの指定文化財の3DデータなどもSketchfabを介して公開されています。

そこで、当センターでも今年度の大畑遺跡とマサノ沢遺跡において、3Dデータの活用を考えるためにPhotoScanというソフトを使ってみました。

試行の結果

今回の結果は、成果報告会の幕間にご紹介します。3次元データを容易に入手できることから、^{しゅうせきこう}集石遺構のような複雑なもの、大型の竪穴建物跡など大規模な遺構の記録などに活用できそうです。また、3Dデータの公開方法についてもwebや動画、PDFなどが可能であることがわかりました。

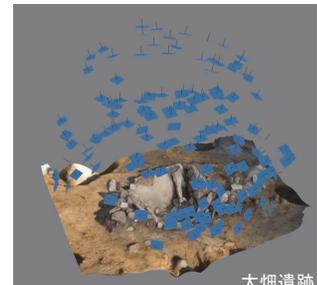
(愛知県埋蔵文化財センター 堀木真美子)

★使用ソフトなど

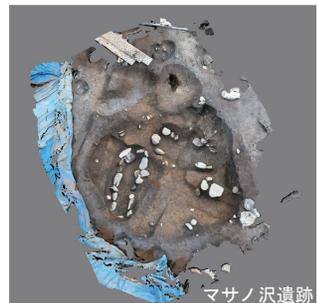
画像処理ソフト: Agisoft PhotoScan Standard Version 1.4.0
build5650(64bit)

使用パソコン: iMac(Retina 4K 21.5-inch, 2017)
CPU: Core i7 3.6GHz メモリ: 16GB

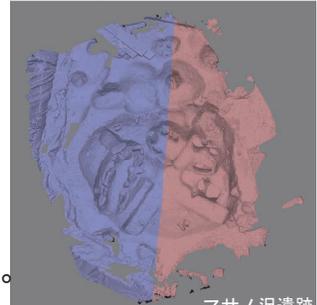
参考になる3D公開サイト: <https://sketchfab.com/CMAQ>



大畑遺跡
▲青いマークが写真を撮ったカメラの位置。



マサノ沢遺跡
▲たくさんの写真が自動でつながります。



マサノ沢遺跡
▲写真データからポリゴンデータになります。



マサノ沢遺跡
▲好きなところで断面図を作ることができます。



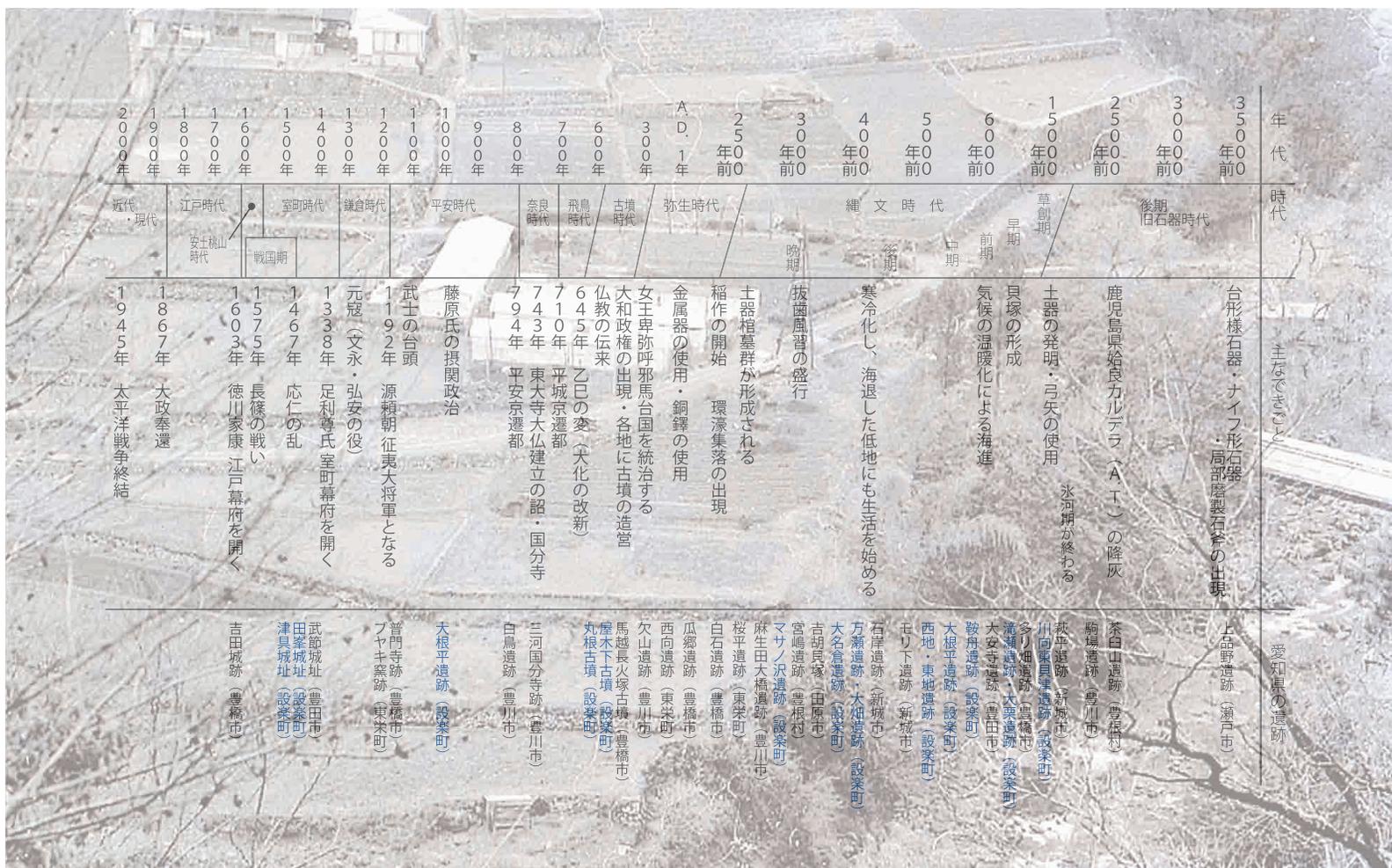
▲大畑遺跡 竪穴建物跡 065SI の石囲炉



▲大畑遺跡 竪穴建物跡 300SI の石囲炉



▲大畑遺跡 集石炉 840SK



縄文時代は、一万年以上にもわたる長い時代です。そのため、研究者の間では次のように六期に分けられています。

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 草創期 (15,000年前～11,000年前頃) | 早期 (11,000年前～7,000年前頃) |
| 前期 (7,000年前～5,500年前頃) | 中期 (5,500年前～4,500年前頃) |
| 後期 (4,500年前～3,200年前頃) | 晩期 (3,200年前～2,500年前頃) |

平成 29 年度 設楽ダム関連発掘調査成果報告会

新設祭発見伝4 配付資料

平成 30 年 3 月 3 日 発行



公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

電話 調査課 (0567) 67-4163

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24

HP <http://www.maibun.com>

Facebook <https://www.facebook.com/maibunaichi>

Twitter https://twitter.com/aichi_maibun